

赤米献上隊が推定宮内省地区へ

平城第22次調査で出土した、但馬国養父郡小佐地域から赤米五斗を平城宮に納めたことを示す木簡に因み、今秋も10月30日に、兵庫県養父市八鹿小学校の6年生児童が収穫した赤米を平城宮跡にもってきてくれました。八鹿町小佐地区では1980年から赤米の栽培を始め、地元の小学生たちが田植え・稲刈り・感謝祭・わら細工づくり等の体験活動をおこなっています。その締めくくりとして例年届けてくれる赤米を、私たち奈良文化財研究所の研究員が、天平人に扮して受け取っています。

今年は、新型コロナウイルス感染症が流行し、赤米の贈呈式の開催が危ぶまれましたが、八鹿小学校では修学旅行先を奈良に変更して、平城宮跡に立ち寄ってくれることとなりました。

平城宮跡における復元建物のある空間を積極的に活用する目的から、今年度はこの赤米の贈呈式を推定宮内省地区で実施することとしました。赤米献上隊は、平城宮跡遺構展示館の東の駐車場から俵を担ぎ、推定宮内省地区へ向かいました。南門から入った児童たちは、南第二殿の南の広場に整列し、贈呈式をおこないました。代表児童からの挨拶があり、赤米1升とお手製の木簡が手渡されました。式の後、児童たちは、推定宮内省地区のすぐ近くの木簡出土地点を眺めながら、馬場史料研究室長の木簡についての解説を聞き、平城宮跡を横断して本庁舎で実物の木簡を実見しました。

天候に恵まれた中で、地元を代表してやってきた児童たちの凛々しい姿は、「なぶんけんチャンネル」で公開している動画で見ることができます。ぜひご覧ください。（文化遺産部 高橋 知奈津）



平城宮推定宮内省地区での赤米贈呈式の様子